令和４年度　第１回　堺市スポーツ推進審議会　会議要旨

1. 日　　時　　令和４年10月18日（火）午後２時から

2. 場　　所　　堺市役所　本館10階　議会事務局会議室

3. 出 席 委 員　　坪内伸司会長、中西一郎副会長、藤井載子委員、上田勝人委員、
西川良平委員、卜部啓一委員、島木伸也委員、田中義昭委員、
清川健一委員、澤本美奈子委員、加藤伸一委員、福尾ひさみ委員、

4. 欠 席 委 員　　池田義枝委員、西山哲郎委員、池島明子委員、秋元美智代委員、
清水万理委員

5. 行政側出席者　　文化観光局長、スポーツ部長、スポーツ推進課長、
スポーツ施設課長、スポーツ推進課長補佐、スポーツ施設課長補佐、
スポーツ推進課企画係長、スポーツ施設課管理係長、
スポーツ施設課施設係長

6. 傍　聴　者　　０人

7. 案件
（1）堺市スポーツ推進プランにもとづく令和４年度の取組状況について
（2）堺市スポーツ推進プランにもとづく令和５年度の主要取組について
（3）運動部活動の地域移行について

8. 会議内容

事務局より案件（1）から（3）について「案件説明パワーポイント資料」を用いて説明

9. 質疑応答

【中西委員】

案件資料 4 ページ目の総合型地域スポーツクラブへの支援について伺いたい。「人材育成」として総合型スポーツクラブマネージャー養成講習会があるが、今回これに参加した 2 団体 5 名の内訳は。既存の団体なのか、新規の団体なのか。

【事務局】

既に設立されている団体と新規に設立予定の団体の 2 団体となっている。

【中西委員】

堺市から補助をしてでも講習会に参加して資格をとってもらいたいということだが、マネージャーの資格を持った人がどこの地域にも校区にもいる状況が望ましいと思うので、まんべんなく様々な地域から参加者がでるように、募集する際に工夫して欲しい。また、資格をもつ人が以前より増えた分、成果を出せる場所を増やして欲しい。

（運動部活動）地域移行の方向性を令和 7 年度までに出していかなければならない中で、堺市だけでなく国としてもそのような工夫がこれから必要なのではないかと思う。

【事務局】

ご指摘のとおり、総合型地域スポーツクラブの運営、参加者の裾野を広げるという意味で参加を促していきたいと思う。各校区のスポーツ推進委員には、毎年周知しており、過去にはスポーツ推進委員からマネージャーになったという実績もある。今後も引き続き講習会の案内は積極的に行う。

【会長】

地域のスポーツクラブという観点から、清川委員は何かご意見はあるか。

【清川委員】

株式会社ブレイザーズスポーツクラブでも案件資料 2 ページにある体力測定会を選手と従業員に行った。スポーツクラブで働いているとは言え、昔は運動・スポーツを行っていたが、最近では行う機会が少ないという従業員が多い。そのため、今回の体力測定会での数字と昔の数字との違いに愕然とした従業員も多かった。翌週から車ではなく自転車等の通勤に変えた従業員もいた。数字によって運動とまではいかなくても、動くように心がけるなど行動が変化した。数字が確認できる体力測定会の実施は今後も大切にしていっていただき

たい。また、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらホームゲームの会場でも体力測定会を実施していければと思う。

資料 8 ページ目にある今年度初めて行ったプレシーズンマッチをはじめホームゲームの無料観戦の機会提供は 20 年ほど実施してきており、とても人気である。データ分析をすると毎回 60～70 代の方の応募が多い。需要はあると認識しているが、スポーツ観戦に費用をかけるということに抵抗があるように思うので、そこを考えていけたらと思う。また、プレシーズンマッチでは観客の 8 割がファンではない方であり、バレーボールという媒体でスポーツに興味を持ってくれる方を増やす機会が作れたと思う。

【会長】

ありがとうございます。

先日スポーツ庁で全年代の体力が下がっているという報告があった。子どもの体力についてはどうか。小学校、中学校の状況をお聞かせいただきたい。

【卜部委員】

スポーツテストを毎年行っているが、堺市は全国平均を下回っている状況である。ここ 3 年は新型コロナウイルス感染症の影響から友達と距離を取る等の活動制限をしていたため、屋外での活動は難しかった。また、本校では夏場の熱中症対策のため熱中症指数が 28 以上になる日の運動場での遊びは中止しているため、6 月末から 9 月頭は教室で過ごすことが増えており、活発に運動することが難しくなっている。初等教育研究会の体育部会で体育指導の手引きを作成し、体育を得意としない先生もそれを参考にしながら取り組んでいる。

本校での体力向上の取組として、冬場は休み時間に縄跳びを積極的に行い、学校の中で大会を実施している。2 年ほど出来ていないが、堺市全体としては縄跳びをどれくらい跳ぶことができるか競う「チャレンジランキング」を行い、ランキング上位校が集まって大会を開催している。その他にも子どもたちが積極的に好きなスポーツが作れるように取り組んでいる。部活動の地域移行に関しては、小学校では難しいところがあるが、校庭開放として土曜日、日曜日に小学校で実施している野球やバスケットボール、バレーに積極的に参加している子どもたちもいる。今後も子どもの体力向上の取組を進めていかなければいけないという状況である。

【島木委員】

新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、部活動が出来ない状況が続いていた。その際には、グラウンドで遊ぶことは小学校同様に控えるように指導していたため、部活動が再開されてもすぐに疲れる、熱中症の症状で保健室に運ばれることということが多かった。

更衣室が密になることから、体操服で登校しそのまま授業を受けるという状況があった。体育の後もそのまま授業を受けるため、衛生面からも体力作りとして行っていたグラウン

ドに寝転ぶような補強運動の実施を避けようという後ろ向きなことが続き、体力が落ちていったのではないかと思う。部活動もある程度再開し始めているので、これからまた体力向上の取組を実施していこうと考えている。

【坪内会長】
学校教育の中で部活動は成長発達にとって大切なものであり、部活動の制限により体力の低下がおこるのも一定理解できる。児童生徒の体力向上については新型コロナウイルス感染症の拡大が収まった時のひとつの課題になると思う。

【澤本委員】
学童保育の指導員をしている。新型コロナウイルス感染症が拡大する前は、2 部屋の内、1 部屋をゴム跳び等を行う身体を動かすための部屋としていたが、新型コロナウイルス感染症が拡大してからは密を避けるため 2 部屋とも学習のための部屋としている。そのため、身体を動かして遊ぶことができない。今年から密にならないようにしてだが、外遊びを始めている。ゴム跳びを久しぶりに行った時に、1 年生は走って片足で跳ぶという動作が出来ない子が多かった。学校で縄跳びやのぼり棒を体育の授業でもするので、活発になってきているが、何気ない動作など、自分の身体を自由に動かすということが出来ない子がいる。また、ボール投げも同じ側の手と足を出して投げる子がいたりする。
子ども達には、何気ない動作をさせてあげたいと感じている。

【坪内会長】
運動を行わないことが、発達の過程において動作のスキルにも影響があると思う。体力面だけでなくスキル面での課題もあるということだと思う。

==========

【坪内会長】
運動部活動の地域移行については、各団体指針等決まっておらず模索中ではあると思うが、提言について現状の課題やご意見があれば報告して欲しい。

【藤井委員】
総合型地域スポーツクラブの立ち上げやスポーツ推進委員として地域で活動を行ってきたことからも、地域のスポーツは大切なものだと感じている。教育現場を始め、防犯、防災等地域が支えるところが多く、地域がなくてはならないものが多いと考えている。総合型地域スポーツクラブの観点としては、平日の学校の部活動と地域に移行する土日の部活動は別で考えていく必要があると思う。小さい子に多様なスポーツを経験させることが大切で

あり、そういった意味では例えばバスケットボールを部活動で行いながら地域では他のスポーツを体験するということも必要だと感じる。プロ野球選手の大谷翔平選手は高校生の時に野球をしながら肩の可動域を広げるために水泳教室に通っていたと聞く。やはり、いろんなことをやってみるということが大切であるのではないかと思う。費用がかかることなので国から費用をとることも考えて欲しい。

また、都道府県ではスポーツを知事部局が所管しているところが 40%、教育委員会が所管しているところが 60%となっている。堺市は文化観光局にスポーツ部があるため、教育委員会と離れており、どのように運動部活動の地域移行を行うか教育委員会と話し合っていくことが課題だと思う。当然、全校一斉にすることは出来ないので、モデル校を作り動かしながら課題を見つけ良い方向に進めるということを早くから行うことが必要なのではないかと考える。

【澤本委員】

個人的な意見にはなるが、中学校の部活動のサポートという面で指導とまではいかなくても先生のお手伝いなら地域で出来るのではないかと考える。各校区のスポーツ推進委員は年配の方が多く、地域の役をしているので、その方が中学校や小学校の保護者だったりすると学校のスポーツの時間に行きやすいのではないかと思う。スポーツ推進委員として研修を受けて行ってもらいやすいのではないかと考える。

【田中委員】

白鷺校区でスポーツ推進委員をしている。長年されてきたスポーツ推進委員は勇退をし、相対的にスポーツ推進委員は若返りをしているが、そこまで若い人はスポーツ推進委員におらず、実際に自分の校区でも平均 50 歳を超えている状況である。もし若い人がスポーツ推進委員をしていたとしても共働き世代であり、PTA の行事にもなかなか出て来るのが難しい。また、もし出来たとしてもスポーツ推進委員のスキルが間に合わないと思う。実際に娘が中学校の時に近畿大会にバレー競技で出場したが、それなりの指導をする先生がいないと公立の中学校で近畿大会まで行くのは難しいと感じる。スポーツをさせている保護者も結果を求める中で、素人の指導では限界があり、また国の施策にも無理があるのではないかと思う。

【会長】

本日欠席されている委員からの意見を預かっていれば、事務局から報告をお願いしたい。

【事務局】

大阪体育大学の池島委員より事前に意見を預かっているので紹介する。中学校における部活動は、「課外活動」であり、教科以外の教育課程だと思う。そのため、生徒の得意や興

味のある分野について 3 年間取り組む手助けは教育の専門家である教員が行うべきではないかと思う。高等学校においては、中学校での経験を踏まえ、生徒が「部活動に熱心な学校」を進学する際に選択できる点からも、教員以外に部活動指導をスキルを持った指導者に依頼するのは良いと思う。あくまでも個人的な意見である。

【坪内会長】
大学の教職課程を受けている学生に話を聞いたが、教員になり中学校で部活動の指導をし、生徒を育てたいという目標をもった学生もいる。それが出来ないのであれば、どうしたら良いのかという悩みを抱えている学生もいるため、学校と地域とのバランスが難しいところがある。

【島木委員】
教員になって 1 年目はソフトボール部、2 年目以降は野球部の顧問として毎日土日も休みなく部活動に携わってきた。私は野球を専門としてきたため、野球部の顧問は苦ではなかったが、他の先生を見ていると自分が専門でない競技の顧問になった際に、プレッシャーがかかって休んだりされている方もいる。池島委員の話にもあったように教育課程の中で部活動というのは大事な部分であり、教員が教えてこそ意義があるという思いもある。校長という立場では顧問の配置には苦慮する場合もあり、その点では地域移行も良いが、部活動を通じた生徒とのつながりも大切であるため難しい問題であると思う。

【田中委員】
一時期、学校に外部コーチがいたことがあると思うが、今もいるのか。それを活用することは出来ないのか。

【島木委員】
今も外部コーチはいる。活用はどんどん行っているところではあるが、ほとんどの学校が全員顧問制をとっており、教員はどれかの部活動の顧問にならなければならない。

【田中委員】
小学生とは異なり、中学生は競技性が出てくると教える限界がくるのではないかと思う。そのため、スキルの面でもやはり地域に持ってくるのは難しいと考える。

【藤井委員】
今回の運動部活動の地域移行は土日だけの移行であり、教員で部活動の指導を土日にしたいというならば文部科学省も示している通り兼業としてできる。土日に楽しくスポーツをしたい子、競技性を求める子と希望することも様々であるため、色々な選択肢があっても

良いと思う。また、教員も土日に指導したい人は指導をして、家でゆっくり過ごしたい人は休むということもありだと思う。そのためにも地域の受入れ体制を整えていくことが大切だと考える。

【田中委員】
地域で受け入れる器が出来ていないのが現状である。総合型地域スポーツクラブが全ての地域にあるわけではないので、難しい。たとえスポーツ推進委員が資格をとっても地域に反対されれば総合型地域スポーツクラブを設立することは出来ない。10 年ほど前に総合型地域スポーツクラブの見学に行ったことがあるが、場所も費用もかかり中々大変であると感じた。推進していくには地域に力を入れていただく必要があり、現状自分の地域ではしんどいと思う。

【福尾委員】
大阪障がい者スポーツ指導者協議会は、ボランティアの登録をしていただいた指導者で障害スポーツを提供する協議会となっている。地域でスポーツをしていこうという中で、障害者スポーツはできる場所が限られている。障害者スポーツセンターでは、同じ教室が毎回実施されている訳ではなく、支援学校の先生が指導するにしてもスキルや技術がないため、そのスポーツを継続して行いたいと思う子どもをそのままにしている現状がある。まずは障害者スポーツセンターと障害者スポーツ指導者協議会が協力してそのスポーツを指導できる指導者のための講習会を実施し、その後、地域に持って帰ってもらい、支援学校の場所を借りて実際に参加者を募りそこで指導をしてもらっているが、指導員のスキルを上げるのが課題である。また、子どもの障がいのレベルも違うため、障害をみるスキルも必要となることからボランティアの団体では費用の面だけでなく、人の面でも課題となっている。指導する方もボランティアであるため時間の調整が難しいのも現状としてあり、障害者スポーツでも指導者の問題は同じだと感じている。

【坪内会長】
課題がたくさんあるのも当然かと思う。移行を進めながら検討していくしかないと思うので、ご意見等があれば事務局の方に一報入れていただくことで、だんだん方向性も定まっていくかと思う。運動部活動の地域移行について今回いただいた意見を参考に検討材料にして欲しい。

【事務局】
運動部活動の地域移行については、現状まだ方針が固まっていない状況ではあるため、情報提供という形を取らせていただいた。いただいた意見を聞いていても国が示しているようなことの全てを希望する生徒や学校に一斉に行うことは難しいと感じている。その中で

皆さんの意見を聞きながら地域で出来るところ、学校現場でやってみたいというところからモデル的に実施することで、国が示している令和 7 年までという期限を守るというよりは子ども達の部活動を守るという観点で落ち着いて取り組んで参りたいと思う。
今後ともご意見をいただきたい。